

学 位 論 文 要 旨

氏 名 吉津 晶子

題 目 世代間交流実習プログラムの導入による保育者養成のモデル構築

保育者養成課程の学生を対象とした、子どもと高齢者の間に立った「世代間交流の支援」という専門性を高めるための保育者養成プログラム開発を本研究の目的と定め、その具体的な内容をクロス・トレーニング・プログラムの開発とした。「世代間交流の支援」とは、対象者の理解（子ども・高齢者）、対象者をつなぐこと、世代間交流の教材開発、さらに世代間交流のプログラムマネジメントを含めた総合的な力量と想定し、その力量形成のための方策がクロス・トレーニング・プログラムである。

第1章 本研究の背景と目的では、社会的な背景を概観するとともに保育と世代間交流について考察した。さらに保育者養成における世代間交流の位置づけと課題について明らかにし、本研究の目的について述べた。さらに、国内外における世代間交流の実践、研究を概観するとともに、その教育的意義についての考察を行った。その上で、改めて保育者養成における世代間交流についての学びと経験の必要性について論述した。

第2章 クロス・トレーニング・プログラムの開発では、クロス・トレーニング・プログラム（以下、CTP）の本研究における定義づけを行い、世代間交流の人材育成の理論的枠組とCTPの関係を明らかにした。具体的には、世代間交流における人材育成の理論的枠組の中から、旧保育士養成カリキュラムおよび新保育士養成カリキュラムの補完および強化として位置付けられるような細目を抽出し、これらを合わせて検討した。また、CTPの実実施計画を作成する上で必要な事項の検討を行い、CTP実施計画（プレ・プログラム）の作成を行った。さらにCTPの実践を経て、臨地実習に参加した学生を対象とした意識調査をもとに、課題の導出を行った。さらに、導出した3つの課題ごとに修正プログラムの検討を行った。CTPの再検討に際して、学生の意識調査、実習記録の記述、さらにはCTPに参加した研究者との研究結果をもとにプログラムの修正、変更、充実を図るとともに、CTP再試行プログラムの妥当性の検討を行った。8回におよぶCTPの実施を第1フェーズ、第2フェーズからラダープログラムを経て第3フェーズというカテゴリから概観し、立案・実施・検討というスパイラルアップによってCTPの内容充実を図ってきたことを示した。

第3章 学生の質問紙調査を元にしたCTPの検証では、CTPの参加者に対する量的および質的な分析を通して、CTPへの参加が保育者養成課程の学生の世代間交流に関する認識にどのような影響を及ぼすのかについて検討した。その結果、量的分析によって、CTPへの参加が学生の世代間交流に関する認識のうち(1)世代間交流への支援について肯定的な認識、(2)高齢者

の支援に対する肯定的な認識、(3) 高齢者に対して親しみやすい印象、の3点を向上させる可能性が導出された。さらに質的分析によって、これらに関するCTPへの参加の有無による学生の具体的な視点の差異が示された。さらに、活動全体を有機的に捉える視点が養われる可能性も認められた。

第4章 研究の総括と今後の課題では、本研究の主要部分である第2章と第3章を総括して、今後の課題を示した。総括については、CTPの開発をフェーズごとに示し、それぞれのフェーズ内における研究結果と課題を合わせて示し、開発の全体像を明らかにした。その結果、第2フェーズにおいて確認された間接的支援の力量形成に関する学びの可能性が再肯定され、さらに本研究の目的である「世代間交流の支援」の専門性を高めるために必要な要素である「対象者をつなぐ」ことに対して、保育者として「対象者をつなぐ」役割やその重要性に関する気づきが間接的支援の学びを踏まえて学生の中に形成される可能性が見出された。

本研究では、世代間交流という視座から保育者養成を捉え、新たな人材育成のモデル構築を試みてきた。しかし、まだその研究の途上であり、他の養成校における同様のプログラム実施の可能性、再現性については課題を残している。そのため、今後もプログラムの継続を通して実証的研究を行い、プログラムの汎用化に向けた検討を進めていきたい。さらに今後は、プログラム修了者を対象としたフォローアップとともに、5年後、10年後という縦断研究を視野に入れ、CTP経験が保育者としての職能形成にどのような影響を与えたのかということについても探求していきたい。